

dd-パクリタキセル療法

+ 大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを2週間毎繰り返します。

				← 1クール →		
				第1日目	2日	3～14日
薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	点滴	点滴
① デカドロン注 ガスター注 ポララミン注		無色	むかつき、吐き気及びお薬の過敏症を抑えます。	↓ 15分・点滴	お休み	お休み
② 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 30分・点滴		
③ パクリタキセル注 [®] (パクリタキセル)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 3時間・点滴		
④ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴		
⑤ ペグフィルグラスチム注		無色	発熱性好中球減少症の予防。	皮下注射	↓	

※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。

※また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

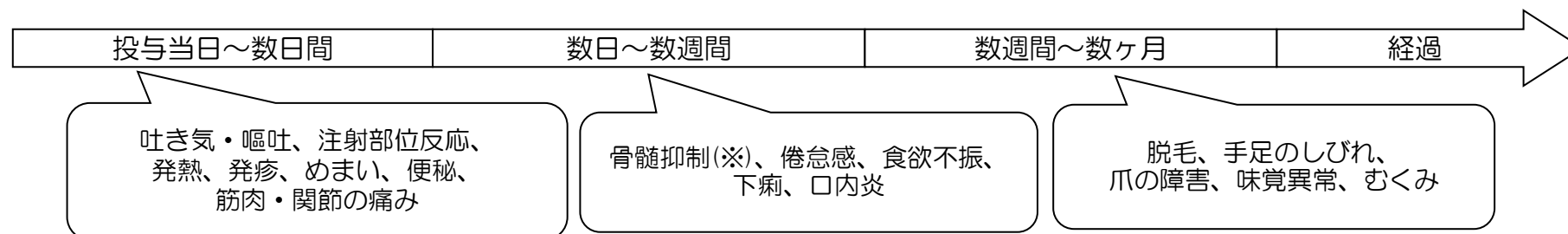
【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。
お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。
このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。

抗アレルギー薬や、お薬の中にアルコールを含むものがありますので、眠気やふらつき、転倒にご注意ください。
また、アルコールに弱い方、アレルギーのある方はお申し出下さい。点滴日のお車の運転はお控えください。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。
これらの症状が必ず起こることではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



※骨髄は、血液成分である白血球・赤血球・血小板等を産生する臓器です。
骨髄抑制とは、その機能が低下することを言います。

【注意が必要な副作用】

頻度は高くありませんが、次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

- 骨髄抑制 : ★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、
鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
- 過敏症 : ★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
- 消化器症状 : ★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
- 心障害 : ★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頸部の締め付け、圧迫感、冷汗
- 腎障害 : ★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
- 肝障害 : ★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
- 皮膚障害 : ★中央に浮腫を伴った発疹、まぶた・眼球結膜の充血、口腔内の痛みを伴った粘膜疹
- 肺障害 : ★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
- 聴力障害 : ★耳が聞こえにくい、耳鳴り、高音が聞こえにくい
- 出血 : ★口から血を吐く、血便、鼻血や歯肉、膣からの出血
- 末梢神経障害 : ★感覚や運動の麻痺、手足のしびれ、手足の痛み

連絡先 大津赤十字病院

Tel 077-522-4131

平日8:30 ～ 17:00 受診されている診療科
平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日 救急外来